

当院を受診された小児患者さんと保護者様へ

当院では下記の臨床研究を実施いたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名：自閉スペクトラム症小児への応用行動分析（ABA）早期療育と、2～3年後の予後の関係を明らかにする多施設共同・前向き観察研究

## はじめに

自閉スペクトラム症（ASD）は人口の1～2%とされ、集団で生活を営む上での困難につながるため、どのように育児や支援を行うかは社会全体の課題です。米国では応用行動分析（ABA）を用いた療育が正式に認可され、その有用性を示すデータがあります。一方で、日本でのASD児への療育でABAを用いている施設が少なく、各施設で手探りで療育を行っているのが実情です。今回、新たにASDと診断されたお子さんについて、2～3年後の様子と、早期療育の種類によってその様子が変わるかの研究が企画されました。

## 対象

桐生厚生総合病院で2025年3月から2027年3月に本疾患と初めて診断された、2歳6か月から就学前のお子さんが対象です。

## 検討する内容とデータの利用について

年齢2歳6か月以降に自閉スペクトラム症と初めて診断されたお子さんについて、2～3年間、毎年、発達指数あるいは知能指数、対人コミュニケーション能力、感覚プロファイル、不適切行動の程度、学校教育の種類、向精神薬の内服状況を外来診療に併せて評価します。並行して、正式な応用行動分析（ABA）による療育と、療育なし、あるいはその他療育との間で長期予後と比較することで、ABAによる早期療育の有無が長期予後に関連するかを観察します。お子さんやご家族の個人的な事柄（氏名、住所、誕生日、受診券番号等のプライバシー情報）に関する個人情報は一切含まれず、全て番号（識別番号）で登録され、個人が特定されることはありません。検討結果を医学雑誌、研究会・学会等で発表することがありますが、この際も個人が特定されることはありません。

## 本研究への参加について

今回の事業への参加は、保護者の方の自由意志であり、参加しないことで不利益が生じることは一切ありません。また、本研究に参加されることを同意した後、もしくは研究参加途中でいつでも同意を取り下げることができます。

## 本研究の利益相反

利益相反関係にある企業はありません。

## 問い合わせ先

不明な点や質問は下記にお問い合わせください。

桐生厚生総合病院 小児科 医師 大木康史 電話（代表）：0277-44-7171